

流行ニュース:

## &lt; コレラ、モザンビーク &gt;

2003年 6月 15日、モザンビーク公衆衛生省は 87例の死亡（死亡率 0.74%）を含む 11,796例のコレラ症例を報告した。Maputo州では、2003年 1月 1日より 6月 15日までに 31例の死亡を含む 4,124症例（現在は減少）が確認された。Maputo州と Maputo市における集団発生のピークは、南アフリカの Mpumalanga州での流行<sup>1</sup>、Mpumalanga州に隣接するスワジランドの Hohho北部での流行と同時期である。WHOはこの流行に対して国境をこえた対策を提案している。この期間に Gaza州では 29例の死亡を含む 2,004症例が、Sofala州では 14例の死亡を含む 2,812症例が報告された。WHOはコレラ流行を抑制する為に Gaza州と Sofala州で保健当局を援助している。 参照<sup>1</sup> No.23,2002,p.197

## &lt; 腸チフス、ハイチ &gt;

2003年 5月 30日、40例の死亡を含む腸チフス 200症例を WHOアメリカ地区事務所（PAHO）とハイチ保健省が報告した。3例は研究所が確認した。集団発生は乾季の 4月に始まり、ドミニカ共和国に隣接する Grand Bois 地区の村に広がった。これらの村は医療施設や清潔な水の供給が不十分で全ての取水場は最大レベルの大腸菌汚染を示した。死亡例の大部分は医療を受けていない。5月に PAHOと保健省は流行調査と対応の為にチームを派遣した。その対応は取水場の調査、移動式診療所の設立、症例検査の為に研究所の設立、健康教育の提供、地域レベルでの対応の組織化であった。

## &lt; SARS(症例と国の更新) &gt;

2003年 6月 19日、801例の死亡を含む 8,465例の可能性例が 29ヶ国より報告された。

今週の話題:

## &lt; ポリオの根絶への進展、2002年 1月～2003年 3月、ナイジェリア &gt;

1988年、WHO世界保健総会の世界的ポリオ根絶決議の後、年間の概算ポリオ発生率は 99%以上減少した。この報告はナイジェリアでの 2002年 1月から 2003年 3月までの急性弛緩性麻痺（acute flaccid paralysis AFP）の監視と補足的な予防接種活動（supplementary immunization activities SIAs）の進展を要約している。

## \* 定期的な予防接種:

国家の定期的な予防接種サービスは過去 10年間以上効果をあげなかった。2000年の報告では幼児の 3回の経口ポリオワクチン（OPV3）接種率は 38%であった。WHOとユニセフは 2001年の OPV3接種率を 25%とした。；2002年のデータは入手できなかった。

## \* 補足的な OPV予防接種活動:

1996年に全国ワクチン接種日（national immunization days NIDs）が開始されて以来、月齢 0- 59の児を対象とした SIAsがナイジェリアにおいて毎年行われている。NIDsの報告達成率は 5歳未満の小児に対して 2002年 10月に 3,600万人、11月に 3,890万人であった。また流行地域での地域別ワクチン接種日（subnational immunization days SNIDs）が 2002年 4月と 9月、2003年 1月、3月、4月に行われた。2003年最初の SIAsは 1月と 3月に国の中央北部と北東部の Bauchi, Bornu, Gombe, Jigawa, Kaduna, Kano, Katsina, Yobeの各州で 1300万人以上の 5歳未満の小児に実施した。北西部の Kebbi, Niger, Sokoto, Zamfaraの各州は 2月と 3月に実施した。2回の追加が地方 4月と 6月初旬に活動の弱い地方自治区 Bauchi, Jigawa, Kano, Kaduna, Katsinaで行われた。さらに 2回のワクチンによるウイルス一掃（モップアップ）作戦が 1年以上野生型ポリオウイルスの分離のなかった Nasarawaでの 野生型ポリオウイルスの流行に対応して 2003年 2月と 3月に行なわれた。SIAsの計画、実施、モニタリングを援助するために、2002年は 2001年に比べ 3分の 1以上多い 50人以上の国内外のスタッフが訓練そして配置され、SIAの質が監視され社会動員活動が拡大された。

報告された SIAの達成率は高いが、いくつかの地方自治区では一貫して 80%未満の効果しか報告されなかった。2003年 1月と 3月に SNIDsが 8州（Bauchi, Bornu, Jigawa, Gombe, Kaduna, Kano, Katsina, Yobe）で行われ、接種率は 1月の 21%（43/203）から 3月の 38%（72/203）に改善した。

5歳未満の非ポリオ AFP症例に対する OPV接種状況の分析は、ポリオの免疫レベルの指標とされる。2002年 3月から 8月には、北部と北東部の 9州（Bauchi, Borno, Gombe, Jigawa, Kaduna, Kano, Katsina, Sokoto, Yobe）では 5歳未満の非ポリオ AFP症例の 60%未満しか 3回以上の OPVを受けていない。これは改善した Gombe州を除く 8州では 2002年 9月から 2003年 2月までも同様である。同期間に多くの南部地域の州では、80%以上の 5歳未満の非ポリオ AFP症例が OPV3を接種していた。

## \* 急性弛緩性麻痺（AFP）の監視:

AFPの監視の質は報告の感度（非ポリオ AFP率が 15歳未満の 1/10万人以上）と検体収集（AFP症例の 80%以上から 2回以上の適切な便検体収集の実施）で評価される。2001年に比べ 2002年は、非ポリ

オ AFP 率は 3.8 から 5.7 に、適切な検体収集は 68%から 84%に上昇した（表 1）。2003 年 1 月から 3 月の間に非ポリオ AFP 率は 4.2、適切な検体収集は 91%となった。AFP 監視は Ibadan 大学（Oyo 州）と Maiduguri 大学（Borno 州）の WHO に認可された研究所が行い、その検査数は 2001 年の 3,935 例から 2002 年の 6,164 例に増加した。非ポリオエンテロウイルスの分離率は、2002 年は Ibadan 研究所で 15%、Maiduguri 研究所で 18%であり、2003 年 1 月から 3 月の分離率はそれぞれ 13%と 8%であった。

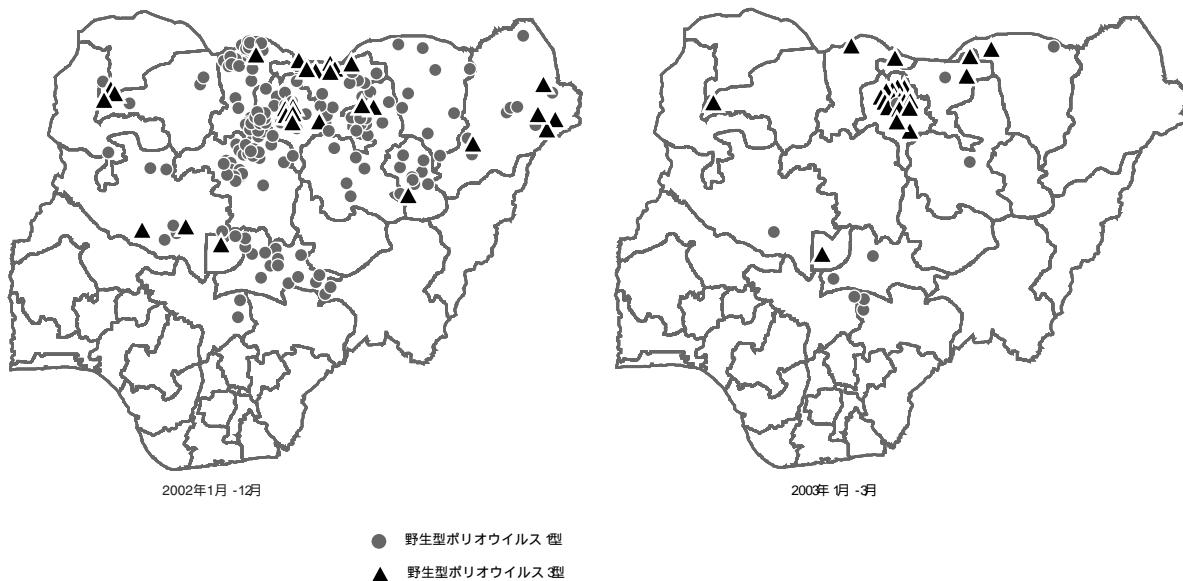
表 1: AFP 報告症例数、確認された野生型ポリオウイルスの症例数と型の分布、評価指数、年別、ナイジェリア、2001-2003 年（WER 参照）

\* 野生型ポリオウイルスの発生：

確認された野生型ポリオウイルス数は 2001 年の 56 例（型 35 例、型 21 例、両型 1 例）から 2002 年の 202 例（型 174 例、型 28 例）へと増加し、平行して AFP 症例の監視は改善した（表 1）。2003 年 1 月から 3 月は 32 例（型 10 例、型 22 例）が検出された。南部 16 州（Abia, Akwa, Ibom, Bayelsa, Cross River, Delta, Ebonyi, Edo, Ekiti, Enugu, Imo, Lagos, Ogun, Ondo, Osun, Oyo, Rivers）と中央部 4 州（Adamawa, Kwara, Plateau, Taraba）では 2001 年 7 月から野生型ポリオウイルスは確認されていない。

ポリオウイルス分離株の遺伝子配列の解析により、流行中のポリオウイルスの生物学的多様性が減少し続け、より多くのウイルス伝播の連鎖が断たれることが示された。しかし激しい野生型ポリオウイルスの伝播が 2002 年から 2003 年の間に北部州と中央北部州で続いた（地図 1）。2002 年には北部 5 州（Bauchi, Jigawa, Kaduna, Kano, Katsina）での全報告症例数の 66%（133/202）が、特に Kano 州では 25%（51/202）と野生型ポリオウイルスの 50%（16/32）が 2003 年 1 月から 3 月に検出された。2001 年の伝播のピークは 9 月から 11 月であったが、2002 年は伝播のピークが幅広く 4 月から 11 月であり、88%（178/202）が報告され、その 47%（95/202）は 2 歳未満であった。また接種状況が報告された 167 症例のうち 20%（33/167）は OPV 未接種であった。

地図 1：野生型ポリオウイルス分離の分布、ナイジェリア、2002-2003 年



\* 編集ノート：

ポリオの監視とワクチン接種の進展にもかかわらず、激しい野生型ポリオウイルスの流行がナイジェリア北部と中央北部の州で続いている。野生型ポリオウイルス伝播の増加（約 4 倍）の理由のひとつは 2001 年から 2002 年の監視強化による発見率の上昇であろう。しかしその大部分はワクチン接種の不十分さが原因である。

2003 年 9 月の北部の州における SNIDs に続き、10 月と 11 月の NIDs が実施される。これらの高品質な活動が野生型ポリオウイルスの伝播を阻止すると考えられる。ナイジェリアでポリオ根絶活動の維持には世界的な協力が不可欠である。

< WHO 感染症に関するウェブサイト一覧 >

（宮本靖、平田総一郎、片岡陳正）